續ふしの集

月のあかきまてにてもてあそぶ歌のうあるて
ものはなのうつくしきをもてあそぶ歌のうあるて
これ詞にうつくしうあるとこそ人のこと
て今やうの和歌をかくるわかしあるべし人
のうちあるかとこそ歌のうつくしきをもてあそぶ
あるて上代のやうにやすらはなるもあれとて
よまてしかをのこころにはなてて情なきをやたゝ人の
うつくしあり景のうつくしきをもてあそぶ
穿花蛺蝶深深見　點水蜻蜓款款飛　これこそ
かのうつくしきをもてあそぶ歌なれ
てやすらはるんやうにて景のうつくしきを
ひとものうれやうにうつくしきをもてあそぶ

神あり詩や音やこゝろの俤のまゝ　野渡
無人船自横　角義かゝあるゝ俤のなのた
くしの海へし　紅葉をこゝものそをこゝろこしの
地を繰あやし　紅葉をこしのたゝ行ようして
言寸をチ　こゝものわりあるそかゝち
なこさ見あを　ゝあいろなをこゝをまほ
をこゝかゝの　ものこゝをつるゝ花あわ叫のふそ一
紅葉ゝたゝめゝに　同し　孤のふい家の書
ゝなゝこゝこゝ　人ゝれ叫のゝ行ゝう
ほわやすゝ　紙のゝ行そなゝわに見ゝし
人乃叫ゝゝ　ゝをゝばゝわをまへゝゝ他のゝ
む所ゝまゝゝ　色をゝゝしてゝを

すゝ行ゝゝ人乃ゝゝそゝゝる　又ゝゝる
ゝゝかゝゝゝ　叫ゝあわ叫の俤　巣ゝ叫ゝゝゝ
叫ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝしをゝゝゝへし　ゝ行わ余　ゝゝゝゝゝゝゝをゝげ
ふゝゝゝゝゝゝ　ものゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝ楚
國をゝゝれゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝに辨をゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ　漆園乃書ふ
ゝゝゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝに光角ゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
て俤あゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
たひゝゝのゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

江上隱士素堂書

續虚栗集

春之部

改正

新年を御慶とぶらひ八十年　任口

[illegible]　芭蕉

[illegible]　自悅

[illegible]　杉風

[illegible]　麋塒

[illegible]　文鱗

元日や家々ゆつりの古刀帯　去來

去る梅に かすみ残りて　古男　挙白

先しの餞 そもり春日哉　沾蓬

蓬莱や 児這ひ風に 月出さよ　山店

面白 咲てつくせる 桜日外　魚児

鶯や 雑煮ゑる里つきて　尚白

松もしろの春 かくれ日和哉　千春

梅と我 こゝ見あかす 日哉　覲水

日ごろ春を さすらふ鶴の 歩哉　其角

草むらの 蔭うつ人 時ぞ鳴　山川

松ぞ ちらくと 雪やすあらし哉　如泥

紙角の 手箱や 蔵つき　野馬

遊大音寺

梅の香や 乞食の家も ゆかしく　其角

岸の梅 打ぬ書 詠うし　文鱗

梅のつた 義経 なつかしし 姿うり　向水

老慵

断よりの 山吉を 老の賣もせて　芭蕉

落ちとこほる音もなく人の孫ひろひ　嵐雪
古草や新仏まして土筆　文鱗
ちくみれて蘭ちらく頃ひなり　芭蕉
春雨さく川邊ふさく根芹小　冬市
路ゝ(ハ)東もちの板葉乳　沾徳
西ほとの雛ものあれこの板葉小　全峯
つゝしの残雪ふる蕨なり　由之

春行

春の暮節米ふるる蕨小　仙化

ちらゝとちるさくらの塚小　沾蓬
白波の翅よ高むら汀帆乳　紋水
村の鶴つくづくの知るかなし　巴風
春雨ふる貧ふるふるしく　野馬
寒食の烟まれあるすゝかな　青亞
同游のかしまに清ひる西
乃らの波を離れあた武蔵
野の月とつまり
ちくらでんとうひく
松流や風乃あり　不卜

海[illegible]屋に近き[illegible]　峡水
浦[illegible]や[illegible]の[illegible]　扇雪
かくれ[illegible]大
巣の[illegible]幣くゝり　村雀　峡水
[illegible]
俺[illegible]も[illegible]情[illegible]　同
中山の暗[illegible]
[illegible]　不卜
[illegible]　琴風

旅行　[illegible]

[illegible]や鶴(ツル)乃[illegible]飛込　賢かく　半残
巣[illegible]　舟竹
[illegible]　三園
雀子や[illegible]の[illegible]　其角

結廬在人境

夕[illegible]　飛こゝ[illegible]　仝
[illegible]　曽良

[illegible]
雨[illegible]

肩絡やすもる蠅の孫ふわり　巴風

青柳よりしく睡るとみる　嵐蘭

ゆすわに見を一まれる柳か　衛門

見おろあひく咲て立ぬ柳れ　魚兒

曲ら陰をよひくまかるあ柳か　其角

柳ふい敷もるる歌を孔　同

おもひすつくて
つくを跳るまる猫あり

妻もやと燕ろへ風野猫孔　魚兒

嘶を分陰孤燕乃ゆるる外　觀水

春晴

湯つくる虹をゆる燕孔　其角

重三

不寿女乃雛つくる袁形　嵐雪

雛ゝるる影と女ハ住孔あり　孤屋

小式部うゝ世を雛乃小袖孔　紋水

所ゝ乃顔ゝあかるる桃乃宴　舉白

もゝかゝや雛ゝおゝて小壺　其角

[illegible]

世を思ふに我酒うし　姪う雛　真角

草庵

花の雪待て上戸う法華一会　芭蕉

鶴の巣もみしらぬ花の梢哉　同

[illegible]　風虎

[illegible]

獨もゆく姿うもいとあり　文麟

[illegible]　摩白

花折と思ふ意あるいたせん　仙化

さそはれて碁をけうけるうたんか　安重

何事に人走[illegible]　由之

花うへて[illegible]庵の後なるすべさ　巴風

桑[illegible]の白[illegible]　魚兒

[illegible]乃花こけた

花盛　古[illegible]　亡人　萩露

泳唯一心

[illegible]乃なかこと久なる　觀水

妻もと男人おもふ人ぞ　破笠
糸竹乃ゑのいとわぬ小袖哉　蚊足
むを思ふ人を懐を産ぶ　卜子
御雲座いさう入あしの紀蜜　風笛
あらしやつ凡あらしの山　嵐雪
ゑのよあらぬ憂世男乃悟さか　去来妹　千子
ぞ乃ぞと母よつまるつ先ゝう児　具角

日々酔如泥

花持ゝ市乃礫ゝ有つゝん　同

春興

川辺人鑵（おしか）流ゝ佐ゝ石　露沾
黄精（アヤトコロ）ありか城の日乃彩　十角
ゝを同童衣冠を志ゝ　沾徳
壁ゝ同加る隙る白雪　嵐雪
月ゆゝ旅乃趣のつゝ　嵐雪
人を風ひく紙衾ゝ　虚谷
形成乃瀟ゝ歌ゝ地　角
初秋ぞ高ゝ松沾

蕎麦(きりくす)蓋落く小舟あり　荷

樽かもとめる　聴の雁　徳

鞍うの田中の月も澄くて　谷

俤くさすする　僧の振袖　雪

思ひ出を揚弓くらべ　園原　沾

三角に詠て夏を忘へ　角

我舞を　曙の霞の浦　徳

吹上の　垣の松風　荷

燭うて花ぞうの浦　雪

ナ　小乃弥生　徳

濃(コキ)墨の磯もとめ　羽を　角

氷を消(ケカ)ぬ　春を乃窓　沾

うれさの気の　鶴の　荷

来て来て　慈悲奥　徳

常陸帯　板(イタノ)人の　支　徳　谷

笑て　懐(オチ)て　江の　雪

松の石のる　岳の陰　沾

風夜　寒笛を吹　角

書（フキ）て月人の頭巾蒸さるる 法
御朝の香士う被あり 茶
角切て稀雪る敷の雪
鱠食さく鱠ら陰 石
山ちし笑る遥てかせく晃 角
丁々鶯く毒の丁青 徹
笠賞小ずる漁を人あて 荷
雪の中を休せ塩焼 徳
萬葉よりまれ もの名所ら 谷

霞 こめ始ら又 岩城山 雪

月當午

朝滴 襟よつ ぬ 蚊足
日さうの 文鱗
雨ら ん地息 由之
一すに ふ月 全峯
炭うも ひ 稿の 野水

二荒の山の神主

あまたゝびとゝふものひろはの猶　枳風

ちるハツ〻酔のさめるタさゝら　自悅

奴ゝりしてさゝらの春色　旦葉

公伐士乃笠ゝつくし猶りなし　嵐水

梅の礼乃ゝゝさゝれし　ゝ

石竈よさゝら[クト]ゝ女ゝ　松江

宝深ゝ人ゝゝ　孤屋

さまゝゝの人ゝもあるな猶りなし　野馬

抱ゝ物をのぶくちかゝゝ　魚児

剃髪

ゝゝりの乃ゝゝ　荷兮

勢田脊望

やゝさゝゝ身ゝ泣ゝの乃ゝ　其角

仁味衣

電乃ゝゝ本ゝゝ　仝

思ゝ乃ゝ

誰ゝ辛ゝ於ゝ　枳風

釣臺

舟寄ん洲濱乃蘆乃夕日ハ　泊蓬

山ゝの鶯よ餌(エバ)求ん端居ハ　冬市

らんぷを入るゝ蜘の子の　濁子

ゆくしらぬ雨やさ舟昇る　羽笠

やさしに如れわすれぬ　尚白

あるゝんまを手にかゝれやつ夏　泊荷

簾山を数すのゝ宮つくし　宇齊

咲まゝて待人もなつし哉　破笠

東蓮華　姑の孫りや此のくゝ　文鱗

蓮ゝんひゝを千ゝ番兵門　三園

ゝゝゝゝゝ　ら咲　苣若　素堂

春朝

都市けてくゝ買ゝ鯨ゝ　嵐雪

ゝゝ豆

年乃時ゝゝゝゝ茶摘歌　蚊足

春夜

ゝゝれの鶴ゝ　其角

仲竜子詠ける

[illegible]日を囀る[illegible]の[illegible]れ　芭蕉

原中や物[illegible]つらしけるを蕉　同

[illegible]

晴[illegible]る[illegible]流へひ[illegible]れ　狐屋

鳥帽子を[illegible]ひ[illegible]　野馬

山を焼く[illegible]　御簾巻へ　其角

光けく　網[illegible]入　魚屋

水を[illegible]の[illegible]　馬

稍活の[illegible]ゆ[illegible]ちの松　角

禪僧の赤裸なる涼[illegible]　屋

雪白の蓑[illegible]　乃[illegible]

俳諧の誠[illegible]　角

雪の力[illegible]　笠

梶原や猪[illegible]　馬

男[illegible]　角

[illegible]を盗入と立さわ[illegible]　屋

[illegible]　髻（モトヽリ）　馬

血乃涙ハの灯籠の朱塗き　角
奥の松形ハ成極る枝苗　屋
除くも亀まあ〳〵れの音ス　乙
月ハ乃雑ゑ乃わわくと　角
名
セきふまて鑑金あゝく屋ハ　登
心を遠きよりハ　角
物くゝ葉ゑ乃　馬
手ゑ乃ゑ乃角入ゑう　登
親ハ鬼ゑハ乃あ〳〵き藁ゑう　角

打ちたゝん月の夕月　乙
書形乃新さめゑゑ吟ゑひき　屋
四手溝入れゑ門乃中　角
うゑ殘す波の浦の雪白　乙
葉すくゝめゑ際月ゑ雲　登
珠数〳〵のあゝり御〳〵寺ゑ　角
あゝ楽ゑ物乃ゑて所りる　馬
被(カツキ)袋ゑの形を大ゑとゑゑ　登
うゑ乃ゑる藪の切そぎ　角

五月雨塗られ籠る笠もなし　唐

海乃久毛大陳さしき　角

思ふかな物笑いまし毛の隅　角

はるゝ擣ぬる麦食乃爪　る

續猿蓑

夏之部

俳諸百韻　北枝

夜錦集

本尊ゝ油ゝけゝ紙ゝ沢　意朔

蜀魂罪に背をするゝ狼ぬ　暮角

郭公なきゝ飛ゝ同ゝし　芭蕉

浪舟や大ゝきかるゝ月ゝ雲ゝ　其角

杜鵑鳴て後ゝ立あるやらん　松風

書を佐ゝ藤ゝ次ゝうきゝ人ゝ

[illegible]那妹[illegible]へせ[illegible]　具角

[illegible]一[illegible]の[illegible]　秋風

待乳山三句

[illegible]場を[illegible]　加泥

[illegible]　具角

[illegible]　蚊足

[illegible]足[illegible]

[illegible]　角

[illegible]　斗角

川[illegible]や衣[illegible]搨[illegible]　角

搨[illegible]皆　臺[illegible]　数足

[illegible]　同

[illegible]　角

扇[illegible]日記を拾る冬の[illegible]

蔵の[illegible]所[illegible]土[illegible]包[illegible]　足

僧と咲[illegible]皆　静[illegible]　角

尾工[illegible]　足

神鳴つ[illegible]　角

[illegible]狂惑つ[illegible]命[illegible]　足

吾宰の庵　角
鳴原近き　ものの跡　足
悲啼（キ）　ものの音　角
古髪　情む月もうしを　角
江を嘉よ亭の孤燭白く　足
るや信（シカ）ある浦田の秋風　角
却盛鳥（カケ）ものくらの首をうて　足
勇士の土産　浮海をわ　角
美女の夢日長けをも暮海　角
契めしものの奥の論を書　足

或ハ志ものく住吉浦戸より遣（ジカハ）ん　角
七食の馴て出を世を知　足
所ものうの二ものうを茶筅賣　角
花を飛田の狐しのう　足
高灯籠板の猶丹前ものく　角
晩稲花ものく湖の限（ク）を　足
情論の一ものの流合ものの　角
隣ものくて拔（バヒ）の糊ひく　足
通（リ）ものく冬の驛の多ものく　角

降りつもる雪の玉味噌　足

屋うりの松の家成るべくうれる　角

反故うり捨てる閑か倫ニ　兮

顔あらう都の友のあつまり　日

豆うつ数の笑い迷　角

世中の恥よ駝のうちうちして　日

寺うりするにあたるの春の日　兮

妾在閨　十八句

眉帚乃素うつの墨ケヒの白ふ　巴風

螢消ゆる帳の裾　仙化

おとろの二つ共篠筒の樹　兮

袖口寒く帳を出る　風

蘆の後ろ山音を夕月夜　化

かりうを生んだ城の内　角

隠家や板垣うつむ秋深し　風

傘の内　秋ふる君を問　化

滝見しに乱るる餐のあてやうか　角

山鳥なきて人の心を慰む　風

花の陰獨行く月の影　化

雙林日上下の春の夢　角

殊更の落雪明かるし　風

いざよひ出口の茶の香　化

道心や仏く志を法の道　角

涙かな小仏乃剛　風

一雛の数行く牛の角　化

薄とり分く遠山の曙　角

八月　母乃三回忌

方丈に衣ぬぎ掛ける外月かな　長角

初七夜いとけなくして

芋ほりに母をかへすう部哉　同

廿七日月追善會

卯月も母なし宿の淋しさ　芭蕉

香煙のうすきの花のうすき　キ角

ぬしのなき月沈て　元吉

各唱

卯月八日の解脱会に

数のあるをこれくらべ　露沾

眉ふりくらべ　松風

あるもの　沾徳

帰入る音も　嵐雪

夏草に活るものそなるかな　蚊足

蚊遣火ハなるて香る梅雨　去来

ほ蛍や　野馬

袋子のふくもにつもり　金峰

[illegible]

[illegible]　魚兒

[illegible]　其角

[illegible]

下部[illegible]　嵐雪

端午　三七日より[illegible]

[illegible]　其角

[illegible]　紋水

[illegible]　魚兒

[illegible] 萬[illegible]の[illegible]　枳風
懺[illegible]妹[illegible]　影棠
[illegible]侍[illegible]高　仙化
[illegible]　魚兒
[illegible]姫の[illegible]　沾蓬

禾村

筍よ[illegible]大あらん　其角
等やかの夜の[illegible]の濁り　嵐雪

自詠

[illegible]容顔[illegible]　芭蕉
[illegible]三日月[illegible]　去來
[illegible]水の[illegible]　沾德
[illegible]月[illegible]　巖翁
[illegible]の[illegible]　巴風
[illegible]風　田穂[illegible]　乎雲
[illegible]　田穂[illegible]　其角
毋の[illegible]の女[illegible]　野馬
夕[illegible]　冬市

雨乃月の早苗に袖を燒れ　由之

[illegible]

入あるは田舍乃ひくく星とうん　觀水

[illegible]　不卜

都乃ん小桶　[illegible]　高政

[illegible]　濁子

[illegible]　玖也

月を入　我[illegible]　風虎

田毛　山中

山路乃[illegible]　芭蕉

吉野や[illegible]　三園

[illegible]

世を[illegible]　自準

田家

[illegible]

つ[illegible]　枳風

[illegible]　魚兒

[illegible]　溪石

[illegible]　野馬

[illegible]つ[illegible]て[illegible]ん　孤屋
暁乃夜[illegible]　[illegible]る蚊遣　観水

[illegible]へまかり

山里乃蚊[illegible]に[illegible]　去来
かやり[illegible]　黄吻
[illegible]の人[illegible]　[illegible]春妻　綾戸
[illegible]　去来
[illegible]　卜千
[illegible]　杉風

[illegible]の[illegible]　杜國
[illegible]
蠅追[illegible]　妹[illegible]　風[illegible]　真角
[illegible]山里乃[illegible]の味　翠紅
風吟[illegible]　[illegible]下
[illegible]　[illegible]心
[illegible]の[illegible]　[illegible]場[illegible]　好抑

誦銭神論

一文乃[illegible]　[illegible]乃水　蚊足

路傍にて示ちもとる清水　嵐水
合歓木乃曙りくめるき清あり　仙化
さそひ解　見さひの月清み水　芭蕉
くもれ竹きりのそらわく
こ林のやとりもとんぼ
京きりく
浴よりけ小舟の岸も蝉れ空　千春
出さ山も杉本れ小町ほされきの　其角
九月の月のあるる時
山鳥も寄りく月の本ろれ　千春

使しらに見ぬく使ひかんこる　其角
陳外よ樹をすく人を
ろれ河ぬん橋を示し
ろもをもくす

何ぬん六月　桐を植る人　同
心法真精口耳組ナリ
蠅を打くる生死を頼ぬん　幻吁

暑ぬ月　初乃糸瓜
おもぐ為て朝起　晝寐　夕涼　其角

落得閑

世をのがれて辻の法をとく涼しさ　文鱗

人のうを見て浮世をはなれ　李下

格子ぐち格子にすむ夕べ　冬市

宿二尊院

涼しさや愛宕をさすや　観水

更るあとを清水敲（ナラ）すみわれ　去來

涼しさや雷去ってさて雨皆　冬柏

格子竈やれのう龍のうら涼　由之

暮れて春月雲を屋うれ　霊谷

夜錦集

奥羽黒塚みちの夏や風もなくすいと　維舟

源義経平泉退散の時

上洛の鎧ぬぎかけるなり

ぬぎ捨の石とぬるや

あつまぢ月もなくれなすいと　同

逐涼　二句

涼しさや光琳ぶりの屋　其角

周の夢やすむ山関の夢ぬかり　文鱗

雨後

つゆはれて水もの[illegible]蓮うれ　野馬
蓮[illegible]師の頭巾包清水　卜千
[illegible]全峯
賈[illegible]且只
ひ[illegible]破窒
[illegible]其角
山[illegible]湖[illegible]濁子

江州[illegible]田郷

千[illegible]自悅
つ[illegible]日[illegible]鉤雪
一[illegible]虛谷
つ[illegible]
夕立[illegible]巴風
夕立[illegible]仙化
夕立[illegible]其角
夕立[illegible]僧宗流
夕立[illegible]沾逢

午歎

廣人を殺もしやうゝ土用中　鮫足

鎧まとつゝれ多めさん土用干　去來

うゝ祇や楊角に似るる土用干　其角

或人所持のかんさゝに

何も形　我頭泡袋哀　後　澤庵

弘文荘書

共二冊

撰集抄

秋之部

日をくれあるやうよの秋男七夕　風虎

天川あらしも秋の色もあらはれ　自悅

星合や贅(ゼ)ものもあらしの糸すゝん　嵐雪

槿を星にかゝるあるあれ　槿花

夏虫や秋はしらんてのひら　綾戸(女)

大内はかすみ星まつり　千子(女)

星合や秋にあまかるゝ　壽閑

[illegible]恩

[illegible]の[illegible]なる張の[illegible]に　由之

[illegible]や女[illegible]て[illegible]ん　其角

贈槿花堂

蕣よ曲[illegible]念しいろ一つうれ　露沽

蕣や待[illegible]の[illegible]　蚊足

蕣は二人[illegible]あ[illegible]　杉風

驚夜雷

[illegible]蕣雷に潔（イナキヨ）　其角

寄李下

[illegible]周[illegible]紙燭に　芭蕉

いなつまや[illegible]あゆむ川向　岩泉

いりつまや[illegible]　湖風

いれつまに[illegible]周[illegible]に　魚兒

遊女[illegible]

[illegible]

霧烟[illegible]の[illegible]に　去來

父母の[illegible]燈籠[illegible]　酒之

なほ人の数をおかしがれば　金峯
ゐる魂の影よ栗ふる嵐かな　文桃

寒き夜ひとんづに衣
ぬぎすてをるかな

女餓鬼すゝ金盃今ゐる迷ひ法のを　文鱗
金をこの秋なきを門の灯籠かな　嵐雪

貧

魂やうん祭るぬ宿を恥さ　蚊足

對愁

さの人や清の水の茶　其角
ちまつの門の食れ新さん　同
笠の中の山いさのみ水　観水
朝つゝん清ら水はせ多　苔翠

忠賀の家の周

されのいかり頭に紅　自悦
踏ふよあすい畠の州あるん　去来
青月を舩ちく玉中られ　春雷
吹せく江の一隅や水と雲　苔翠

[illegible]

禪師より

[illegible]

遊女の[illegible]

[illegible]

女郎[illegible]

下関[illegible]

常陸へ[illegible]

[illegible]

[illegible]

文鱗

同

景道

冬柏

金峰

[illegible]

[illegible]

萩[illegible]

旅宿

[illegible]

入湯の[illegible]

夕萩乃つゆに[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

曽乃

芭蕉

觀水

紋水

[illegible]

[illegible]

舉白

[illegible]秋の[illegible]　[illegible]水

[illegible]去来[illegible]

伊勢へ詣ける[illegible]

[illegible]

伊勢[illegible]のよ[illegible]の戸　女千子

[illegible]草の[illegible]　同

[illegible]ふ乃面を[illegible]　沾荷

聽閑

[illegible]世の庵　芭蕉

[illegible]

何も[illegible]　稲[illegible]　[illegible]　嵐雪

[illegible]草[illegible]一つ　沾蓬

[illegible]の[illegible]　覺覺法親王

[illegible]

峯入い宮を[illegible]　[illegible]旅路哉　宗因

[illegible]見[illegible]新酒　其角

早稲酒やほ[illegible]竹の筒　虚谷

[illegible]　野水

[illegible]　[illegible]

[illegible]　紋水

秋の野や月くらふかる雁　虚谷

世の中やわらくてゆかる　風虎

草庵乃月見

名月や池をめぐりて歩もする　芭蕉

雲形の人を体西の月入り　同

鹿島に詣ぜば宿根本寺

ちらして深う行く月入り　同

名月をとりてまくらの上も　枳風

月入りて蚊の声よりつよくなりぬ　李下

あの人を思ひ出でもいとふの月　観水

月下獨酌

月入るや蚊帳式部を妻にして　蚊足

月窓に蚊帳切ほどの青空　巴風

ちらしも乗せて月の昏　去来

蚊帳とあらそひなくて月入れ　野馬

月入れば蚊帳に入る辺の人　孤屋

梅の人月入るを見やる　砂雲

宗鑑の弟子の命のまま
真心を尽くしたる
新しき月てこの人の曲

古袴月を舞つる秋をこそ月分　文鱗

清涼殿にて
月の体裏
仕はれて

月のごとくに拙き人の業うん　去来
見しかち富士のちいさき月　冬市
月満く掬子うつくしき月分　由之
育ちの唖乃かくゆき月乃分　去来

名月や御堂に鼓かりてゆく　真角

良夜雨意

いさよひもかつてや十四日　同

尋常に乞る月乃えんよりも　彫棠

月撰人とゆかりを

同ちをう者なちうん所の　唐谷

永新乃見くなるまて月いこん　魚兒

商人をつくるものとてやあ月　文鱗

名月や嘉のひあるとるれ　上林

名月を詠て命を惜み乱舞の　蜀山

あらけなくてふしの月乃暑さ哉　蚊足

中よりおく月一筋や霄の雲　似竹

名月八汐よりなるく小舟哉　吼雲

釣そうしよりなるく月乃哉　一林

名月や見ぐら名月いらつあらん　如泥

[illegible]

秋の雨そなく変さうの庶子哉　刀吁

一さらの祝ふまぬ月もさ哉　李下

孫かれなくまさむほたなる

雨りをなるひのよさうの人も

さうの寄れやうなるなるく

秋さ雨よ夜なるの孫の雨哉　女子

ちさ雨も孫くしの雨に祝ふ　去來

孫かなてさくあり　破笠

孫〳〵よ村よくさあるさ哉　金峯

山里や雑よかくる史好て　枳風

子孔言てさくさ山哉　山川

拾くさ孔大雑さ孔の雑雨　蚌笑

[illegible]の窟[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]や坊が妻　芭蕉

獨床

[illegible]

秋興　サ四句　酉比

面白く物うるのい[illegible]ふる　露荷

杖[illegible]　稲乃　雨　[illegible]角

[illegible]の窓[illegible]角　内

[illegible]

ちらくも雲[illegible]　禅庵　内

[illegible]ら成包　[illegible]　酉

山寺の[illegible]　[illegible]

雲か笠ぬく　幕末の[illegible]　角

彩[illegible]鳴[illegible]　荷

寺あ[illegible]　[illegible]　角

夕[illegible]道[illegible]　[illegible]　荷

無　[illegible]　三石の栗　角

先稿もめ[illegible]人をかりもて至キ　荷

酒買ふ中れ[illegible]菴の長　角

水ゆく稿乃上より綱ひかる　同

遊ヨキ習ひよあそ人鵜のみ　荷

夕月ふ怠ル所西[illegible]とうあ[illegible]　角

[illegible]ぬ戸立る霞ま窓　荷

長崎さに帰ら[illegible]　角

召ミ[illegible]年小鞠ひ[illegible]　荷

御ヨ盞初めも月のあ[illegible]初橋　角

四方乃連歌い長の天[illegible]　荷

さ次ぐ[illegible]と金中郷[illegible]鏡月　角

牛ひ[illegible]ま蛾ク[illegible]ろ　荷

重九

三十九

[illegible]ぐさ[illegible]ぬ[illegible]行く[illegible]　蚊足

四十

年法よ案れ[illegible]ろ[illegible]　同

第九情参に[illegible]ぬ秋も[illegible]　露沾

御菊さに男なぶん菓あらば　巴風
年くしの花の香くやー五の菓　衛門
竜鳥のゆくたくー蘭の菊　其角
菊枯くるとゆくらむるれ　岩翁
いくてこの七百代師芝菓に殆ん　其角

卅菴雨

乾あ所菊ほのくやゆ水のあと　芭蕉
痩なくわ月れ菓代つ百水　同
雨立しゆるる這菊をとれん　其角

雨数日市八かくあ乾菊の香　文蘭

落り

蕎麦代いがあわとも祝れ　觀水
蕎麦よ蕾ゆくかゆる嵐れ　透雪
むくる面に甲斐あるる雅の青　岩泉
物くれかくあや椎乃乃折　三翁
年ふる夕月物くのくるる　觀水
童さへ拾　径ク　いくれ水　同
粉蕎くく松茸みえ白うれ　魚兒

松茸や松ばかり奥へ入る　孤屋

松茸や一日しの雨はれの日　三太郎

京出所月

行脚そこそこに踏みあるく　きく角

つもりもくれぬ霜の亀か掃き　松ふ　同

茶ひさぐ星飾りあるみあるく　冬市

嵯峨

紫書や梢のうすく松の蔦　巴風

永世九年春の世の村時雨　遊女　薄雲

寒山の形鱸あるしの夕ぶ　冬市

秋山　二句

甲斐の国の夕ぶ　露沾

秋山や弱もゆる夕ぶ　鞠乃上　長角

閉門　寛句

秋さびしく日土壁ふる風ふる　三園

秋のもとくく菊鶏ふよ　舟竹

秋盡

俳の人縄乃ましれよ秋の暮　不炊

[illegible] 秋の[illegible]れ　一鐵

六客　歌仙　破笠

述懐

[illegible]

[illegible]の[illegible]を書員が出も憎し　其角

[illegible]の[illegible]を憎む青[illegible]　公

月[illegible]中[illegible]せうそう[illegible]の数　笠

[illegible]る暮の雪　同

心[illegible]恋の[illegible]み　角

恋

人[illegible]恋[illegible]上[illegible]　角

別[illegible]こ[illegible]金[illegible]　笠

名[illegible]名殿をうぐ[illegible]　同

[illegible]く晴[illegible]　角

鍋[illegible]筑[illegible]の市[illegible]　円

旅　色酒の世[illegible]　笠

川[illegible]中[illegible]　同

[illegible]　角

[illegible]笠[illegible]宿[illegible]天[illegible]下　円

松を産所よりこの月　笠
宋買ふ時と都にまかりのぼる　同
雪消をまつる甲斐の国の立春　角
無常
夢の中にかりの世や堂もたちまち　同
死出の山の蝋燭を喰　笠
高野の捨て聖の時結び　同
永き夜の長き夜の袈裟　角
業を躍る人とかあると　同
高野の聖の記　笠

釈教
月ぬけて仏と隠る時雨かな　笠
仏ぬけて晩をまつ　角
宮の中に義懐の石組を納む　同
鐘　滝よりあるる山　笠
瀬ノヨミ
瀬ぬるもの冨の世を悟り　同
梅枝
梁の塵　維摩ゆかん　角
乞舞よ度盧ワタラエゆるるの風　同
名柴うれき鄰園をとる　笠
さ月待加茂の祭ひとり　同

癩（シヤク）を咎めて　榊　ゆ　紀　麻

かつらを軍の神は花ぞ　同

春を待つ　大宮司うの畑　笠

書て義那之夏

石橋乃部

十月十一日餞別會

旅人と我名よばれん初霜　芭蕉

亦さん和を宿くるる　由之

鶴（カマ）鶴（クキ）乃心ゆ世のもの　ふ　其角

鶴を分る山陰の　鷹　松風

うゆあるる芝生の島の錦　文鱗

新舞臺　月よすいたや　仙化

中の秋盞（エカキー）ユ一つ[illegible]

[illegible]

[illegible]

酒[illegible]

[illegible]

鰤（ミヤ）つる袖つくしはつる浦川

蘿一面[illegible]

道[illegible]

魚児
観水
金峯
嵐雪
執筆
翁
由之
真角
枳風

月[illegible]

鳥篭（クラ）[illegible]

[illegible]

逢（ミヤ）中[illegible]

[illegible]

花[illegible]

別[illegible]

名[illegible]

[illegible]

文鱗
仏化
全峯
翁
由之
嵐雪
舉白
鉄水
仙化

老の身乃縄あるかぎりは　由之
若流れ　孫の園生　義
の暮を千深入れ　松を分　茅白
命哉　無手　這　蟹　キ角
老ぬくもみぢ　ちらん　海の底　雪
志ぐれを御寺成　彩むる　鶴
蕭や石の色　坂　日の　全嶺
小畑　嵩山　松風
坪の　酒債　義

名ウ

菓乃志ぐれを時雨　峯白
識いそ　成乃天王　仙化
沂牧　笛吹　童　色　其面
僧　腸　枝　全峯
見ぬ　文　昴　晴　松風
堺乃錦　蜀　嵐雪
陽　寄　虫　交　鶴水
箙　出　坂　義

谷深き月ハ人もの不国乃そ　　挙白

あらたふとく春乃山ゝる　　由之

芭蕉庵主回郷

呵ゝ為ゝ世哉きこゝ　　露沾

鳥中を送る

もゝ乃こゝ乃ゝ奥乃頭中外　　素堂

雲もの中行慶めし冬の夏　　不卜

あかつきの明ゝしるゝ外　　嵐雪

明千鳥高ゝ乃ゝ坂　　杉風

此一ゝや大井乃岚佐夜の夏　　紋足

稽ゝてゝ清ゝてふゝ乃ゝ乃夏　　仙化

弦藤ゝ紙小二つハ　　釈風

乾毎月紙小やゝ松ゝ　　李下

[illegible]

ゝ送り中ゝ呵ゝ　　文鱗

呵ゝ乃ゝ盛かゝ乃ゝ　　挙白

[illegible]ゝ乃ゝ　　由之

蒲団借ゝ女ゝ　　露荷

萩枯ぬ　山の紙絹　やこまで　沾蓬
宿とれ雲湯る　用い紙　繁めも　如沉
その日を行きつ　ほされ　溪石
みそれを思う　首途　やこの　其角

詩歌文章　作る

さそれづくそたわ　入日　杉風
眠り　から　ありてなす　何　沾蓬
きとわも　えこは　ほくきれ　去來
くさけくれよか　何　蚊足

蛛の糸の　形　冬市
蟬のこの　て　為睡
ひとくの　無　枳風
牛迫の　蹄　好柳

深川夜泊

ものしや　夜の　本　李下
根ものして　心　巴風
ゆ根の　月　同
松苗も　根　月　枳風

[illegible]屋の後面の[illegible]　琴風

心志[illegible]　卜仁

甲斐[illegible]

[illegible]寂[illegible]

[illegible]の地蔵ゞ　破笠

[illegible]鐘八色　野馬

[illegible]　尓中

古寺[illegible]　吼雲

芭蕉いつ[illegible]　[illegible]盛　素堂

新春

我庵の[illegible]月乃色　好都

和昭都[illegible]

人[illegible]　其角

[illegible]夕[illegible]　好都

[illegible]　由之

[illegible]

夜坐　一百

[illegible]隣[illegible]　其角

[illegible]　同

[illegible]人ハ薫ス

[illegible]　紋水
[illegible]　蚊足
[illegible]　嵐蘭
[illegible]　魚兒
[illegible]　似竹
[illegible]　不炊
[illegible]　巴風

寒蠅

[illegible]　其角

深著世樂無有慧心

[illegible]　嵐雪
[illegible]　景道

宿僧房

[illegible]　其角
[illegible]　三園
[illegible]　湖水
[illegible]　其角
[illegible]　湖春

炭俵十深くつる子やるかな　冬柏

水鳥の顔日蹴（ケ）あるうねりかな　由之

あの男我に帰るゝ夕ちとさ　山夕

鈴かゝる母鷹ヲ晴乃尾上哉　冬市

十二月九日とく雪降乃よろこひ

初雪や幸（ヒ）庵ニまかりある（ル）　芭蕉

いさ友人

君火をたけよきもの見せむ雪まるけ　同

山家乃夕雪

雪に狂こゝろの雪ハいつ拂ふ　露沾

掃りや市に卦（サケ）さん雪みそれ　沾荷

窓明く夕鉢（ナカ）雪降ル夕月　魚兒

雪晴ゑるゝを雪ハたまる音　孤屋

友静亭まておくる

比良乃雪赤鰯より詠めまかな　自悦

杉にしハ小野ゆゝてもゆきで雪晴る　文鱗

もり鳥寝所見るし雪の曾　獨子

うす雪ハ根元より出る煙かな　自棄

初雪に月をとどめる竟竹哉　由之

[illegible]作公[illegible]和雪

さつて雪もて盆にもるべき淥水　其角

月はさやかに鼓もあるべし　露沾

[illegible]炉にほうる炭　露荷

[illegible]の竹をんつく　其角

狭屋ノ

二すじとけさもてやうん道の雪　沾徳

[illegible]　安重

幸[illegible]に[illegible]　観水

[illegible]の[illegible]　敏足

[illegible]の[illegible]　魚兒

慶運う[illegible]　紋水

夜[illegible]　孤舟

初[illegible]　仙化

白川や[illegible]雪[illegible]　東頂

章庵

門の雪搔あり人と話れば　其角
雪見や宋の貝は遠き
股のくゝり雪あり　全峯
門の糸傘ちくく尺ばかり　枳風
雪深し　稲むら白し　斧鉞
搔ぬけて笠もとられぬ雪霙　鈞雪
猶金丸僧ゆくうしろの搔　コ齋
湯成五倫　露沾
君臣有義　其角

主のあるうちのあるじ
父子有親
魚汁や漁さとたれ
夫婦有別
御行さめ杉あめ地
長幼有序
袴長い娘乃子
朋友有信
笑ふ我婦に返す

[illegible]

節分

[illegible]

市に入るとき[illegible]

[illegible]

雉子[illegible]

室乃津より[illegible]

[illegible]

[illegible]

治荷

野馬

素堂

魚兒

紋水

如泥

露沾

歌をよむ月乃[illegible]

[illegible]

[illegible]

年の[illegible]人より[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文鱗

枳風

孤屋

去來

蚊足

翠白

嵐雪

芭蕉

閉

辛の一夜王子の狐見てゆうん　素堂

梅円く心陰念の入て大晦日　敏足

月雪のさちわるしらの昏　芭蕉

辛くゝ乃梅

あきもとていくつなりへたるこれ　其角

貞享四年丁卯歳霜月仲三日

皇都書林　京堀川通錦小路上ル町　西村市郎右衛門藏版

弁宝庵書

夫二冊